

水辺の話題

第3回全国ふるさとの川サミットが開催される。

去る10月24日、25日に新潟県村上市の主催による「第3回全国ふるさとの川サミット」が同市の市民ふれあいセンターで行われました。

これは、平成元年度に建設省のふるさとの川モデル事業に認定された河川を持つ自治体の首長等が一同に会し、相互の交流を図るとともに川を生かしたまちづくりの方策をさぐることを目的として隔年で開催されています。

今回は、新潟大学の大熊教授による「今までの治水、こ

れからの治水」という講演の後、同氏をコーディネーターとし、全国の10市町村をはじめとした建設省、新潟県、当センターの参加による円卓会議を行い、水辺利用の課題、成功例などについての活発な意見交換が行われ、今後の川づくりに対して非常に参考となるものとなりました。また、翌25日には同市の三面川中州公園やサケの一括採捕場などの視察が行われました。次回開催地は山形県鶴岡市を予定。

人と自然にやさしい川づくりセミナー開催

去る11月1日、当センター主催で「人と自然にやさしい川づくりセミナー～IFIMへの招待」を東京で開催しました。

このセミナーは、近年注目されている「IFIM」を開発した研究グループのひとりである、アメリカ合衆国国立生物研究所のテリー・ワドゥル博士の来日にあたり開催したものです。

「IFIM」とは、河川流量に関わる関係者間の利害を調整し、コンセンサスを得るための方法を見出していく手法のことであり、参加された様々な分野の方々が、同博士の長年にわたる「IFIM」の研究報告や貴重な提言を戴くことができました。

また、講演後のディスカッションでは、同博士とともに新潟大学大熊教授、愛媛大学水野名誉教授、建設省土木研究所島谷室長、ニフティサーブ「川のフォーラム」幸野氏をパネラーに、豊橋技術科学大学中村教授の司会で、まだ新しい分野である「IFIM」について、様々な立場から貴

重な意見も戴きました。

これを機会に、我が国でも「IFIM」の研究が進み、現在、全国展開されている「自然を活かした川づくり」に「IFIM」が活用されれば幸いに思います。

